ダリア　取扱説明書

＊この取扱説明書は必要なときに取り出しやすい場所に保管してください。

コード No.2016.04

目 次

１．概要
・・・・・・・・　１
１．１　はじめに
１．２　警告表示について
１．３　保証
１．４　責任制限
１．５　顧客サービス
１．６　事故/事故に至る危険性が高い状態
１．７　使用に際して

２．本製品を安全にお使いいただくために
・・・・・・・・　３

３．基本寸法
・・・・・・・・　４
３．１　寸法と重量
３．２　表示ラベル

４．車いすの組み立て
・・・・・・・・　５
４．１　納品時の確認
４．２　各部名称
４．３　組み立て

５．構成部品と調節
・・・・・・・・　９
５．１　バックサポート
５．２　介助者による角度調節
５．３　座面
５．４　フットレッグサポート
５．５　エレベーティングレッグサポート
（アクセサリーパーツ）
５．６　アームサポート
５．７　転倒防止バー
５．８　ヘッドサポート
５．９　骨盤ベルト

６．使用方法
・・・・・・・・　２０
６．１　車いすを持ち上げる場合
６．２　車いすの操作について
６．３　車いすへの移乗
６．４　ブレーキ
６．５　後方への注意
６．６　坂を上る場合
６．７　坂を下る場合
６．８　段差の乗り越え
６．９　段差 -その他の方法-
６．１０階段

７．車による移動
・・・・・・・・　２６
７．１　車いすを輸送する方法

８．点検整備
・・・・・・・・　２９
８．１　毎日の点検
８．２　安全にお使いいただくために
８．３　清掃方法
８．４　車いすの洗浄
８．５　定期点検について

９．車いすの処分/回収
・・・・・・・・　３１

１．概要

１．１　はじめに

この度は車いす「ダリア」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には、必ず「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。

ダリアは、様々な調節機能や付属品を備えた車いすです。ダリアを最大限に活用し、オプションによる最適化を図るために、必ず訓練を受けたスタッフによる車いすの点検及び適合を行ってください。また取扱説明書には、ダリアを日常的にお使いいただくうえで重要な事項が記載されています。

ダリアには様々な部品や付属品があるため、車いす及び各部品の外観は以下に示す図と異なる場合があります。

１．２　警告表示について

本取扱説明書では、ケガや物的損害の原因となる危険な状況や使い方について警告表示ラベル/マークで示しています。以下に示す警告表示ラベル/マークの意味を確認してください。

警告
警告は潜在的に危険な状態で、回避しないと死亡する、または重傷を負う恐れがあることを示しています。

注意
注意は潜在的に危険な状況で、回避しないとケガ、または物的損害の原因となる場合があることを示しています。

重要
重要は、危険な状態で、回避しないと物的損害の原因となる場合があることを示しています。

この表記は調節や使用時のアドバイスを示しています。

１．３　保証

保証期間は出荷日から１年間です。
クッション、タイヤ、ハンドリム、キャスタなどの摩耗による損傷は、本保証の対象外となります。また物理的な衝撃または誤った使用方法に起因する損傷、および使用者がダリアの仕様書に記載された使用最大体重を超える体重であることに起因する損傷も本保証の対象外となります。インバケア社が示す点検整備に関する指示に従う場合に限り、本保証が適用されます。

１．４　責任制限

インバケア社及び発売元は、以下の項目に起因する損傷については責任を負いません。
・取扱説明書の指示に従わない場合
・誤った使用方法
・自然摩耗
・購入者または第三者による誤った組立設置
・技術的な変更を行った場合
・許可なく変更を行った場合/対象外の部品を用いた場合

インバケア社の車いすに保証対象外の調節（特殊な調節）を行う場合には必ず事前にインバケア社から書面による許可を得て下さい。保証対象外の調節を許可なく行った場合には、当社は一切の責任を負いかねます。

１．５　顧客サービス

連絡先の詳細については、本文書の最終ページをご覧ください。取扱代理店の営業所の所在地を記載しています。

１．６　事故/事故に至る危険性が高い状態

本製品に起因し、ケガの原因となった、または原因となる可能性があった、事故または事故に至る危険性が高い状態が発生した場合は、速やかに担当までご連絡ください。
また、関係当局にも連絡および報告してください。

１．７　使用に際して

ダリアは姿勢の保持が必要な利用者をサポートする車いすです。バックサポートの角度（リクライニング角度）と座面角度（ティルト角度）の調節により、安定した姿勢を提供します。
角度の調節を行う際は、ヘッドサポートを利用してください。
ダリアは、頭部、腕や脚を適切にサポートする機能を持っております。
移送にもご利用いただけます。一定の耐久度を確保するためにクラッシュテストを行っております。

- ダリアは室内外でご利用いただける車いすです。

- 使用者最大体重は１３５ｋｇです。

フロントキャスタのサイズが１００～１５０mmの機種は室内使用を主目的にしています。（屋外で使用される場合は段差等に十分にご注意下さい）

車いすご利用時はレッグサポート、フットサポート、シートクッション、アームサポートを必ず装着してください。

２．本製品を安全にお使いいただくために

警告	この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、重大な事故に繋がり、使用者が重傷を負う恐れがあります。

- フットサポートの上に立たないでください。前方へ転倒する危険があります。
- アームサポート、フットレッグサポート、ヘッドサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
- ティルト角度、リクライニング角度を調節する際は、必ずブレーキと転倒防止バーが有効に機能していることを確認してください。
- 複数の人数で乗らないでください。
- バックサポート、介助ハンドル、ヘッドサポートに重い物を引っ掛けないでください。バランスを崩し後方へ転倒する恐れがあります。
- 車いす以外の目的に使用しないでください。
- 車いすの分解、改造をしないでください。車いすの耐久性が低下し、事故になる恐れがあります。
- 車いすを火気に近付けないでください。
- 高温な場所で保管しないでください。金属部分が熱くなりやけどする危険があります。
- ヘッドサポートを持って、車いすの移動や角度調節を行わないでください。

注意	この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。

- 車いすに利用者が乗っている際は、アームサポート、フットレッグサポートを取り付けてください。
- ティルト角度、リクライニング角度、レッグサポート角度（エレベーティング）を操作する際は、可動部に腕や指など挟みこまないように注意してください。
- ティルト角度、リクライニング角度を操作する際は、周囲にスペースがあることを確認してください。車いすの大きさが変わりますので、壁や家具などを傷つける恐れがあります。
- 車いすを移動する際は、車輪（メインホイール）などの可動部分に腕や指などを挟みこまないよう注意してください。
- 車いすの乗り降りは、平坦な場所で行ってください。
- 車いすを操作、調節する際は注意してください。
- 転倒防止バーは常にユーザーにとって安全な状態で使用してください。
- ネジを締めすぎるとネジ山が潰れ固定できなくなる恐れがあります。
- すべてのパーツ、ネジ及びナット等がしっかりと固定され、緩みが無いことを確認してください。
- 座面の幅を調節するときには、狭くしすぎてアームサポートの内側に骨盤が締め付けられる状態にならないように注意してください。
- 付属品を取り付けるときには、指を挟まないように注意してください。
- バックサポートに取り付けられた背張り調節用のベルトが緩んでいると、転倒やケガにつながる危険性があります。ベルトの張り具合は常に確認してください。
- 濡れた場所、滑りやすい場所、坂道などでは、介助者が操作するブレーキの効きが悪くなりますので、十分気をつけてください。

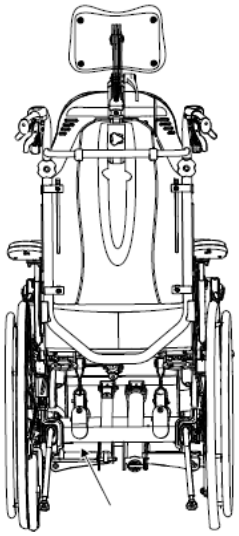
３．基本寸法

３．１　寸法と重量

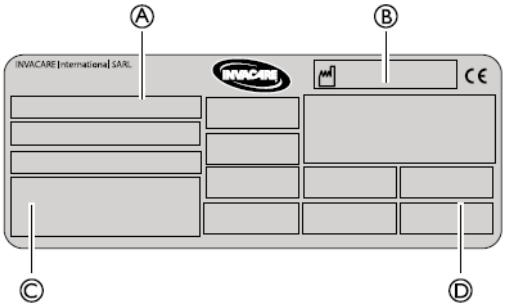
	ダリア３０
メインホイール	１６インチ（400 ㎜）
フロントキャスタ	５インチ（125 ㎜）
座幅	390-490mm
座奥行	430-500mm
座面高	350mm（シートクッション除く） ※オプション対応で 450 ㎜可能
バックサポート高さ	500-800mm
アームサポート高さ	250-320mm
レッグサポート長さ	330-500mm
ティルト角度	-1°－30°
全幅	550-700mm
全高	825-1250mm
全長	900-1180mm
重量	35ｋｇ
使用者最大体重	135ｋｇ
輸送時の重量	25ｋｇ
リクライニング角度	0°～ 30°

＊仕様、サイズにより寸法・重量等は変動いたします。

３．２　表示ラベル



表示位置



Ａ：　型式
Ｂ：　製造日
Ｃ：　シリアル No.
Ｄ：　使用者最大体重

４．車いすの組み立て

４．１　納品時の確認

荷物が破損していた場合は、速やかに運送会社に連絡してください。運送会社が商品を確認し、問題が解決するまでは、梱包材も一緒に保存してください。

４．２　各部名称

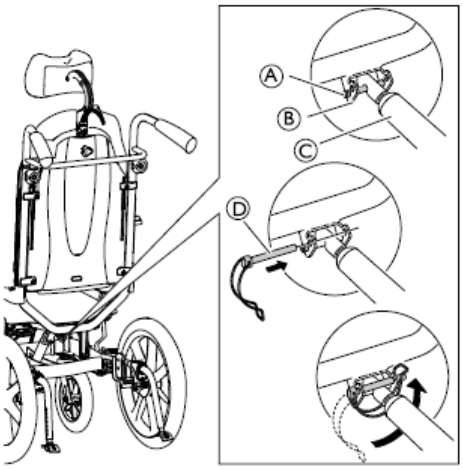
A、ヘッドサポート
B、バックサポート
C、アームサポート
D、シートクッション
E、フットレッグサポート
F、フロントキャスタ
G、駐車ブレーキ
H、メインホイール取付プレート
Ｉ、転倒防止バー
Ｊ、メインホイール
K、六角レンチ５㎜（背もたれカバー裏面に付属）
Ｌ、角度調節レバー（ティルト/リクライニング）
M、介助ハンドル

＊　仕様により、イラストと実際の商品が異なる場合がございます。

４．３　組み立て

車いすが届いたら、まずバックサポートを取り付けます。アームサポートとフットレッグサポート、ヘッドサポートを取り付けます。組み立ては簡単で工具は一切必要ありません。

４．３．１　バックサポート



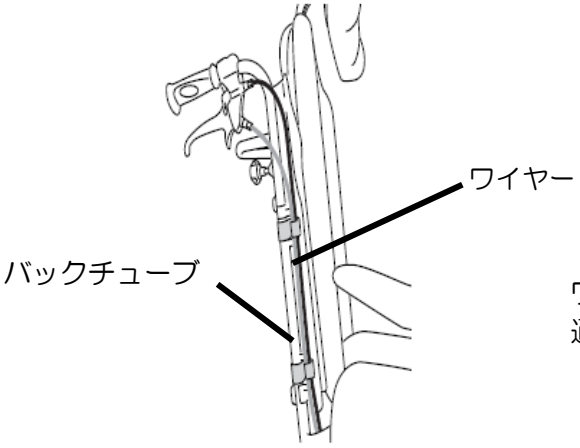
ダリアのバックサポートを取り付ける際には、バックサポートを起こしリクライニングシリンダー（C）をアタッチメント（B）に取り付けます。

ピン（D）をアタッチメント（B）にある（A）を通して固定をします。

ピン（D）についているフックを図のようにセットしてください。

ワイヤーをはさまないように気をつけてください。

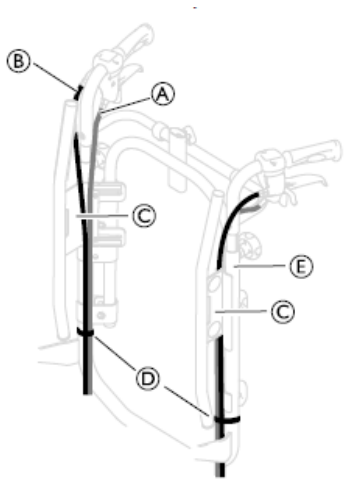
警告
組み立て後は必ずフックがセットされていることをご確認ください。



ワイヤーはバックチューブの外側を通して下さい。

ワイヤーの緩みをなくすためにワイヤーの取り回しにはご注意ください。

４．３．２　ワイヤーの取り回し（フレックス３ モデルの場合）



ワイヤー（A）と（B）を図のようにセットして下さい。

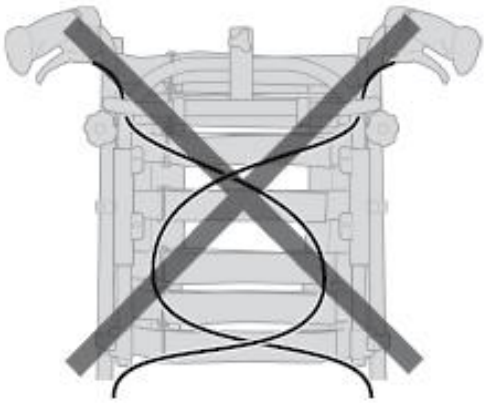
ワイヤー（B）がバックチューブの外側にセットされていることをご確認下さい。

両方のワイヤーをバックサポートアタッチメント（C）の内側にセットして下さい。

ストラップ（D）を使いワイヤーをバックチューブ（E）へ固定します。

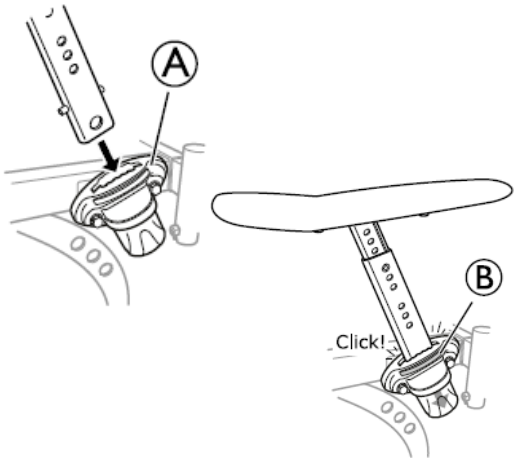
重要
ワイヤーを傷つけないために介助ブレーキのワイヤー（A）がバックチューブの内側にセットされていることをご確認下さい。

ワイヤーの緩みをなくすためにワイヤーの取り回しにはご注意下さい。



警告
ブレーキの効き具合に支障をきたさないためにブレーキワイヤーを図のようにセットしないようにしてください。

４．３．３　アームサポートの取付



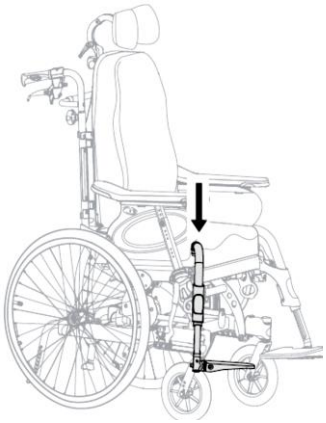
車いすの両側にあるアタッチメント（A）にアームサポートを取り付けます。
ロックボタン（B）を押しながらアームサポートを差し込み、カチッと音が鳴るまで押し込んでください。

アームサポートがしっかり固定されたことを確認してください。

アームサポートは衝撃などで動いたり外れたりすることのないよう、オートロック式になっています。アームサポートを取り外す場合、調節する場合には、ロックボタン（B）を押してロックを解除し、引き抜きます。

警告
ティルト角度、リクライニング角度を調節する際や、駆動時にアームサポートやアタッチメントとメインホイールの間に、指を挟まないように気をつけてください。

４．３．４　フットレッグサポートの取付



フットレッグサポートを取り付ける時は、フットレッグサポートを車いすのパイプに差し込みます。差し込むときにはフットレッグサポートを外側に向けておきます。

フットレッグサポートを内側に向けるとロックされます。オートロック式のフットレッグサポートなので、車いすから外れる心配はありません。

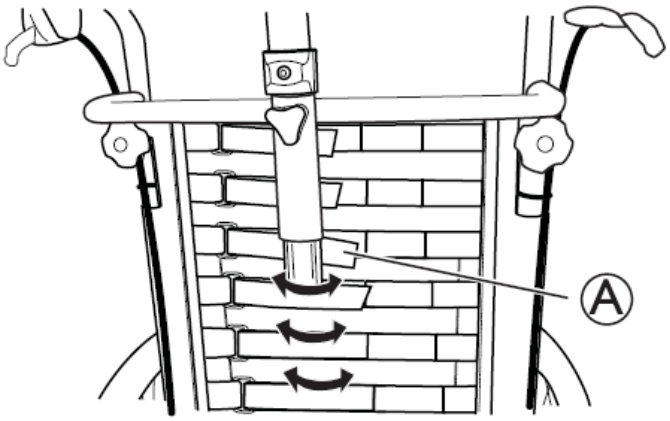
※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

５．構成部品と調節

５．１　バックサポート（背張り調整）

注意
背張りが緩まると頚部もしくは呼吸に問題が生じる可能性があるため調整時にはベルトがしっかり固定されていることをご確認下さい。

注意
ベルトの緩めすぎはバックチューブやヘッドサポートチューブが、ユーザーの体に接触し、床ずれ発生リスクを上げる恐れがあります。
バックサポートとヘッドサポートチューブの間にスペースがあることをご確認下さい。



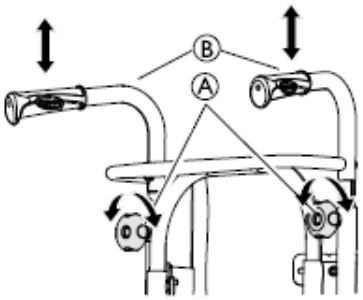
マジックテープ式のストラップ（Ａ）を使用して、張り調整バックレストの形状を調整します。

注意
マジックテープが６㎝以上重なって、しっかりと留められている事を確認して下さい。

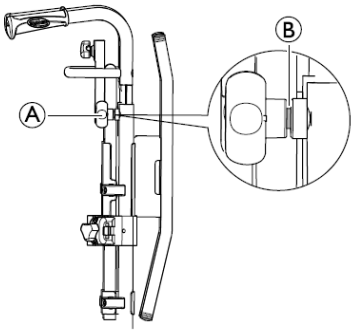
基本的な背張り調整方法

使用者の背中で、より強く支える必要がある部分を決定します。使用者の身体を少し前に傾け、この部分のベルトを締めます。ベルトをすべて締めたことを確認してください。上からまっすぐカバーを取り付けてください。最後にベルトの張り調節をしたときのバックサポートの形状がそのまま維持されていることを確認します。

５．１．１　バックサポートの高さ調節



バックサポートは左右にある２つのノブボルト（A）を緩めると簡単に高さの調節ができます。
介助ハンドル（B）を上下に動かし適切な高さに調節したら、ノブボルト（A）を締めて高さを固定して下さい。



高さ調節ノブボルト（A）の先端が、介助ハンドルチューブの凹みに入っていることを確認して下さい。
左図（B）部に金属部が 2.5 ㎜以上見えている場合は正しく入っていませんので、介助ハンドル位置を上下に動かし、正しく固定される位置に修正を行ってください。

注意
調節後はボルトに緩みがないか確認してください。

５．２　介助者による角度調節

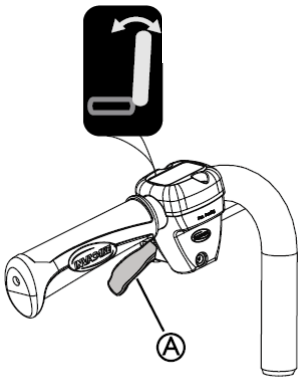
本製品には介助者が車いすの角度を調節できる機能があります。まず、バックサポート角度（リクライニング角度）を前方または後方に調節できます。また、バックサポートを含む座面シート全体の角度（ティルト角度）を変えることもできます。いずれも手動での調節となります。

注意
バックサポートの角度調節をする際に、介助者または使用者がバックサポートとアームサポートの隙間に指や腕などを挟まないように注意してください。

注意
移乗を行う場合や、座面及びバックサポートの角度調節をする際は、
必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーを使用してください。

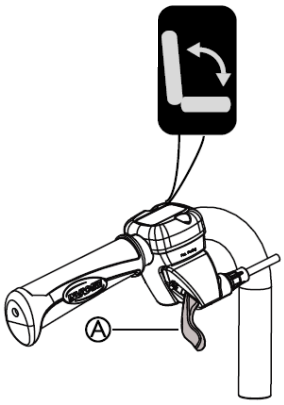
注意
周りに十分なスペースがあることを確認してから、角度調節を行ってください。

５．２．１　バックサポートの角度（リクライニング角度）の調節



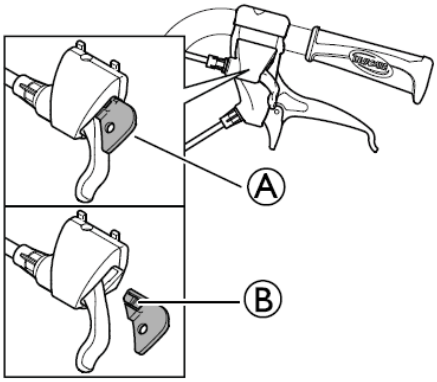
バックサポートの角度（リクライニング角度）の調節には左側の黄色いレバー（A）を使います。レバーを握り、バックサポートが適切な角度になったらレバーを離します。

５．２．２　座面シートの角度（ティルト角度）の調節



座面シートの角度（ティルト角度）の調節には右側の緑色のレバー（A）を使います。レバーを握り、シート全体が適切な角度になったらレバーを離します。

５．２．３　角度調節のロック機能



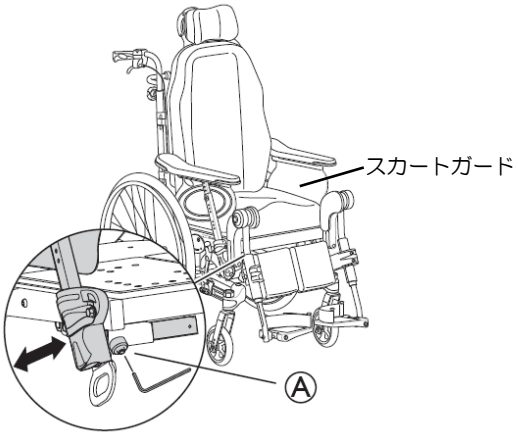
ロック装置（A）を使用するとティルト角度/リクライニング角度調節後に位置を固定することができます。

ティルト/リクライニングを適切な角度に調節したら、ロック装置を差し込みます。
これで角度が固定され、角度の変更はできません。
ロック装置を外すときには、細い棒などを使ってロック装置の（B）部分を押したまま装置を引き抜きます。

注意
介助ハンドルなどに、荷物など重いものを取り付けないでください。車いすのバランスが崩れ、後方に転倒する危険があります。

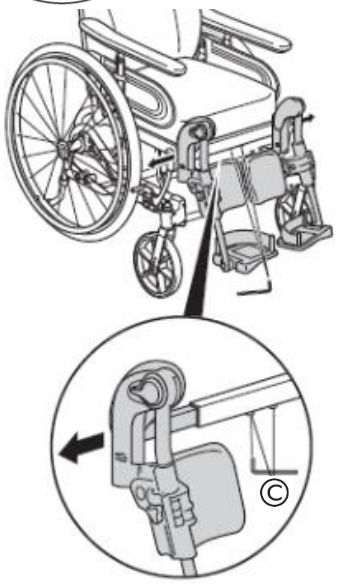
５．３　座面

５．３．１　座幅の調節



１．　付属の六角レンチでボルト（A）を緩めます。左右のアームサポート間の距離を調節し、再びボルトを締めます。

※アームサポートを広げ過ぎると、スカートガードとタイヤが干渉する場合があります。調整後は必ずご確認下さい。

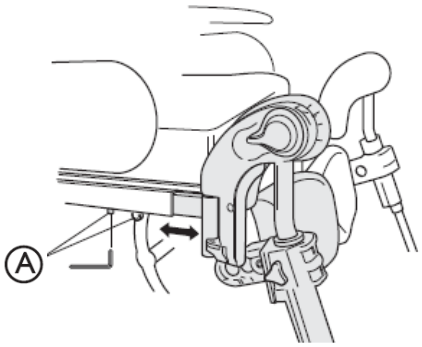


２．　付属の六角レンチでボルト（C）を緩めます。左右のフットレッグサポート間の距離を調節し、再びボルトを締めます。

※一定期間使用すると、ボルト（A）及び（C）の締め直しが必要になる場合があります。
※調節しているときにアームサポート/フットレッグサポートに力がかからないように注意してください。

※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

５．３．２　奥行調節



シートクッションを外し、付属の六角レンチでボルト（A）を緩めます。シートの前端を前後に動かして適切な位置に調節し、ボルトを締めます。
ひざ裏とクッションの間の距離はできるだけ小さくしますが、ひざ裏がクッションに触れないようにしてください。最後にクッションを元の位置に戻します。

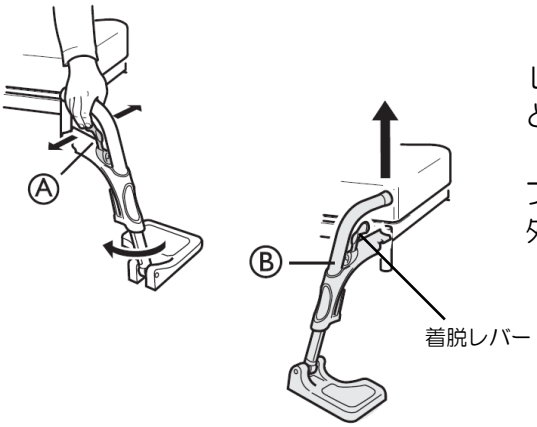
※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

５．３．３　シートクッション

シートクッションは、マジックテープで
シートプレートに固定してください。

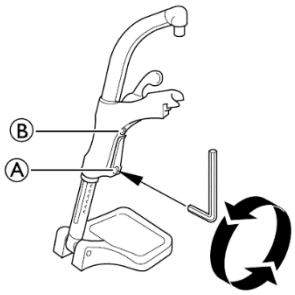
５．４　フットレッグサポート

５．４．１　フットレッグサポート取り外し



レッグサポートの着脱レバー（A）を、左右どちらかに倒しながらフットレッグサポート（B）を外側に回します。
フットレッグサポート（B）を上に持ち上げて外して下さい。

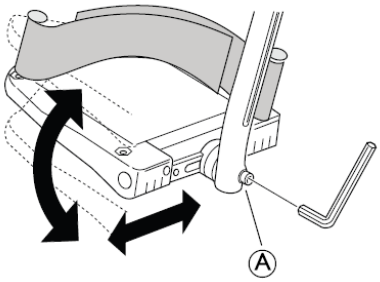
５．４．２　レッグサポート高さ調節



付属の六角レンチでボルト（A）を緩めます。
レッグサポートを適切な高さに調節した後、
レッグサポートフレーム上のいずれか凹部に
ボルトをはめ、最後にボルト（A）をしっかり
締めます。

<u>※ ボルト（B）は触らないで下さい</u>

５．４．３　フットサポート角度・前後位置の調節



付属の六角レンチを使い、フットサポート
取付部のボルト（A）を緩め、角度と奥行を
調節します。フットプレートを適切な位置に
調節したら、再びネジを締めます。

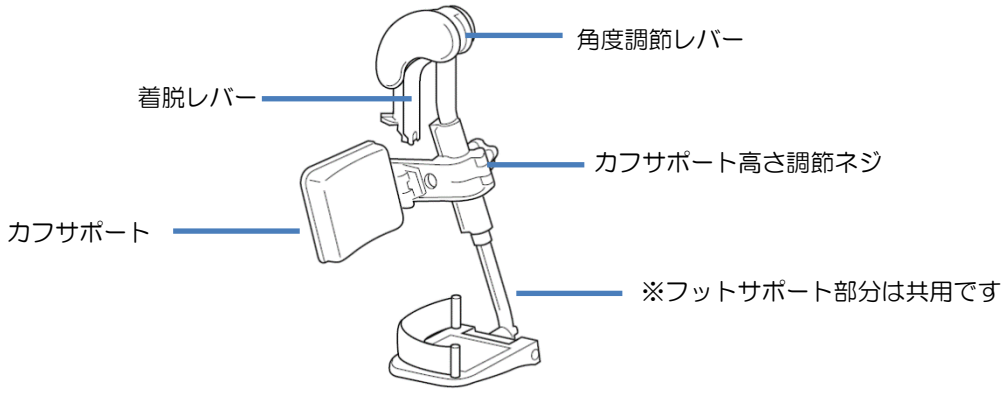
警告
フットレッグサポートの上で立ち上がったり、重いものを載せないようにしてください。また、子供がフットレッグサポートに座ったりしないように注意してください。車いすの破損やバランスを崩して転倒し、ケガをする危険性があります。

注意
各部の調節ネジが凹部に入っていない状態や、緩んでいる状態で使用しないでください。

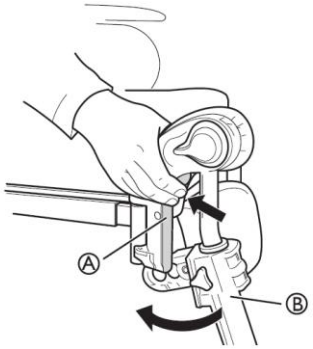
注意
フットサポートから床（地面）までの距離は４０mm以上にしてください。床（地面）との隙間が少ないと段差などでフットサポートが床（地面）に当たり、車いすの破損やケガをする危険性があります。

５．５　エレベーティングレッグサポート（アクセサリーパーツ）

膝関節の可動域制限に対応し、脚をしっかりと支え足部の荷重を軽減するために、レッグサポートの角度を調節することができます。レッグサポートは脚に包帯をしている場合でも使用できますが、ギブス着用の場合は使用できません。レッグサポートには必ずカフサポート、フットサポートおよびヒールストラップを取り付けてください。
レッグサポートの高さと角度を調節し、適切な位置を確保します。

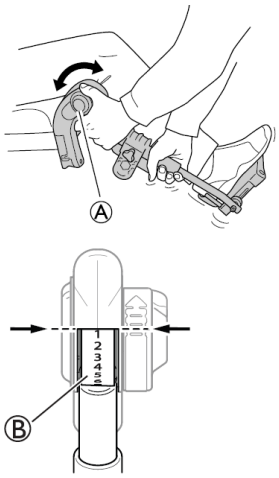


５．５．１　エレベーティングレッグサポート取り外し



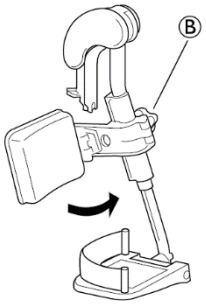
着脱レバー（A）を内側に押しながら、エレベーティングレッグサポートを外側に回します。
エレベーティングレッグサポートを上に持ち上げて外して下さい。

５．５．２　角度調節



片手でレッグサポートを支えながら、もう一方の手でレバー（A）を引きます。適切な角度に調節したらレバーを離します。レッグサポートの角度は７段階（B）に調節でき、いずれかに固定されます。

５．５．３　カフサポート高さ調整

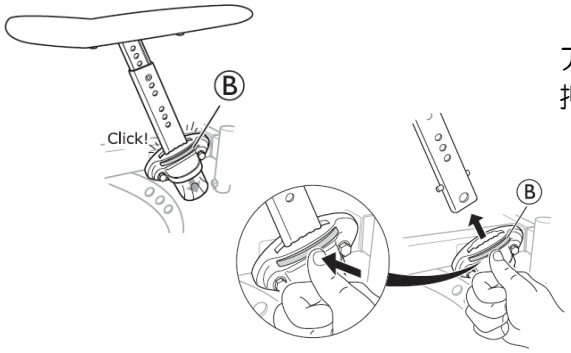


ネジ（B）をゆるめてカフサポートの高さを調整し、ネジ（B）を締めて固定してください。

注意
角度調節をする際には、レバーを完全に開きフットレッグサポートに力が掛からないように注意してください。

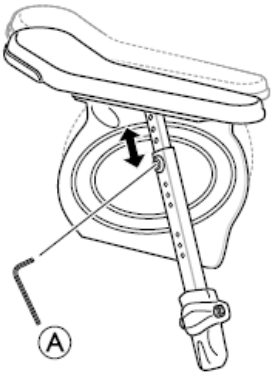
５．６　アームサポート

５．６．１　アームサポート取り外し



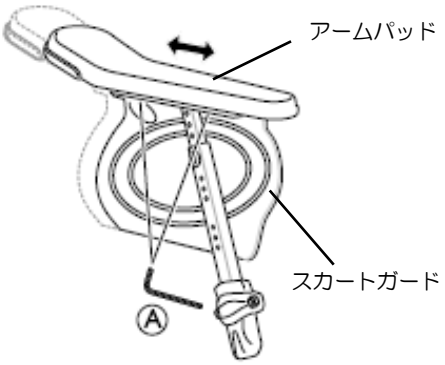
アームサポートのロックボタン（B）を押しながら、アームサポートを引き抜きます。

５．６．２　アームサポート（アームパッド）高さ調節



付属の六角レンチを使用し、ネジ（A）を
はずしてアームサポートの高さを調節し、
ネジ（A）を内側フレームのネジ穴に
入っていることを確認し、しっかりと締め付
け、高さを固定します。

５．６．３　アームサポート（アームパッド）の前後位置



付属の六角レンチを使用し　ネジ(A)を緩め、
アームサポートとスカートガードの位置を
調節し、ネジ（A）をしっかりと締め付け、
固定をします。

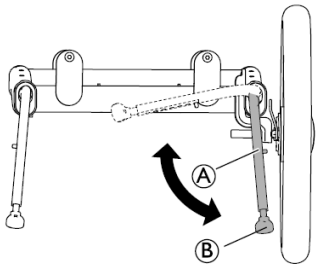
警告
アームサポート調整時にアームサポートとスカートガードの間に指を挟まないように気をつけて下さい。

注意
アームサポートの高さを調節する際は、メインホイールと干渉しないようにセッティングを行ってください。

重要
調整を正しく行っていただくために、アームパッドに力がかかっていない状態で作業を行ってください。

５．７　転倒防止バー

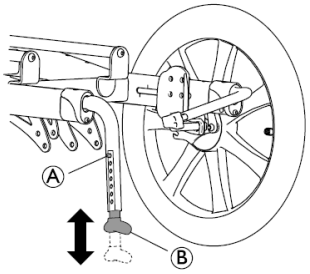
５．７．１　転倒防止バーの収納



介助者が車いすを押す場合のみ、転倒防止バーを上方に向け回転させることが可能です。
転倒防止バーを一度下に押してから、矢印の方向に跳ね上げてください。

この場合、転倒防止は機能しなくなりますので、介助者が車いすを離れる場合は、必ず転倒防止バーを下に向けてください。

５．７．２　転倒防止バーの長さ調整（アクセサリーパーツ）



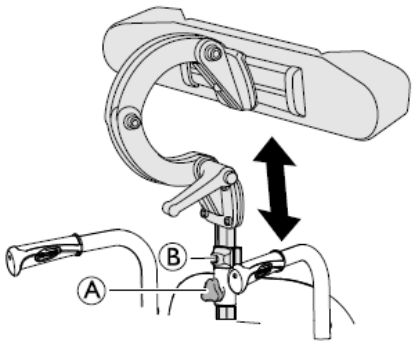
高さの調節ができ、調節方法も簡単です。
バネ式ボタン（A）を押し、転倒防止バー（B）を上下させ高さを調節します。適切な位置に調節すると、バネ式ボタン（A）が飛び出します。

注意
車いすを使用する場合は、必ず転倒防止バーが機能することを確認してください。

注意
芝や砂など地面が柔らかい場所では、転倒防止バーが地面に沈み込み、十分機能しない場合がございますので注意してください。

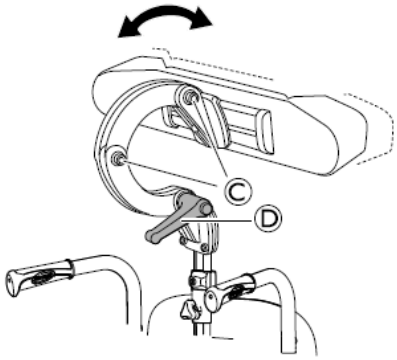
５．８　ヘッドサポート

高さ調節や着脱時には、つまみネジ（A）を使います。
バーの部分の調節可能な固定ブロック（B）で、取り付け時の高さを設定できます。

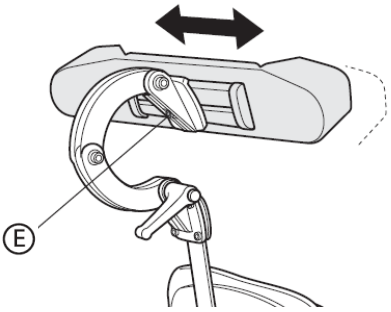


1．　ヘッドサポートの高さを調節する時には、まず固定ブロック（B）のボルトを付属の六角レンチで緩め、次につまみネジ（A）を緩めます。ヘッドサポートを適切な位置に調節し、つまみネジを締めます。固定ブロックをヘッドサポート取付部上端まで下げ、固定ブロック（B）のボルトを締めます。

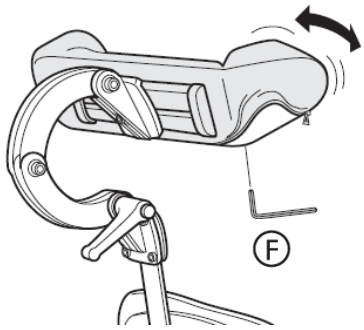
これでヘッドサポートを取り外した後、再度取り付ける時も適切な位置に付け直すことができます。追加調節はありません。



2．　角度と前後の調節にはレバー２本（C）とレバー（D）を使います。これらを緩めて調節し、再び締め直します。



3．　左右の位置を調節するときには、付属の六角レンチでボルト（E）を緩め、調節後に締め直します。



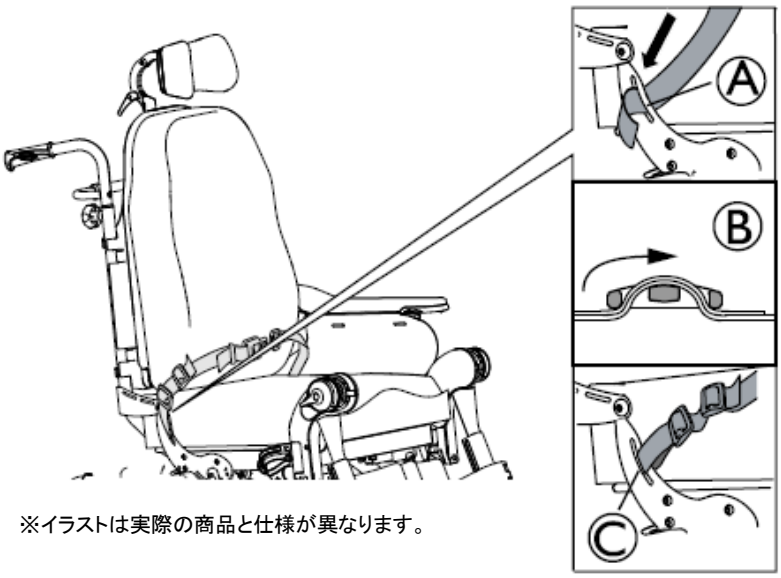
4．　両端の角度を調節するときには、カバーをめくり、付属の六角レンチでボルト（F）を緩め、調節後に締め直します。

※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

５．９　骨盤ベルト

１．骨盤ベルトは転倒防止、すべり止め、姿勢の安定に役立ちます。

２．骨盤ベルトはバックサポートのブラケットに取り付けます。図（A）に示すように、ベルトを車いすの差込口に通した後、図（B）（C）のように２つのプラスチック製のベルト通し（長さ調節用）に通します。必ず２つのベルト通しに通してください。
１つだけでは、ベルトが抜ける危険性があります。



※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

３．調節
腰をシートの奥までしっかり入れ、骨盤をできるだけまっすぐにし、座面の中央に座ります。身体を傾けたり、後ろに反らせたりしないでください。ベルトが腰部の上にくるようにし、ベルトの長さを調節します。ベルトと身体の間に手のひらが入る程度のゆとりを持たせます。ベルトの中央部でバックルを留めることができるように両側を調節することをおすすめします。ベルト使用時には、必ず以上の点の調節を確認し、必要に応じて調節し直してください。

重要
車いすに適用される規格に適合していることを示すＣＥマークが貼付された車いすに、同じくＣＥマークが貼付された車いす用ベルトを取り付けます。
車いす用ベルトの調節と取り付けは、訓練を受けたスタッフ、もしくは、医療専門職が行ってください。

６．使用方法

６．１　車いすを持ち上げる場合

※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

１．アームサポート、フットレッグサポート、介助ハンドルなど、取り外しが出来る箇所を持って車いすを持ち上げないでください。

２．ヘッドサポート、バックサポート、介助ハンドルが固定されていることを確認してください。

３．車いすを持ち上げる際は、図に示す位置を持ってください。

６．２　車いすの操作について

まず初めに、車いすは専門的な知識を有する方によって、利用者の状態やニーズに合わせて選択することを推奨します。

介助する方は、車いすの機能と操作を十分に理解し、安全にご使用下さい。

また、利用者本人が車いすの適切な情報や使い方を理解いただくことをお勧めいたします。

車いすに慣れるまでは、利用者本人ができることを確認し、注意しながらご使用ください。

６．３　車いすへの移乗（車いすからの移乗）

１．車いすと移乗する先（ベッドや椅子等）はできる限り近付けてください。

２．車いすの駐車ブレーキをかけてください。

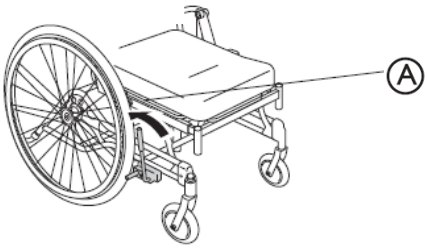
３．移乗する側のアームサポート、フットレッグサポートを外してください。

４．安全を十分に確認しながら移乗を行って下さい。

注意
フットサポートの上で立ち上がらないでください。バランスを崩し、車いすが前方に転倒する恐れがあります。

６．４　ブレーキ

６．４．１　駐車ブレーキの使用方法



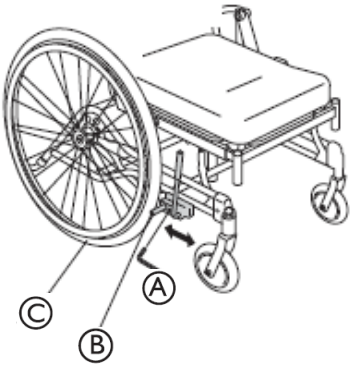
※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

駐車ブレーキは、車いすが停止している時に使います。移動中の減速には使えません。

レバー（Ａ）を後方に引くとブレーキがかかります。レバーを前方へ倒すとブレーキが解除されます。

注意
ブレーキピンとタイヤ（メインホイール）の間に指を挟まないようにしてください。

６．４．２　駐車ブレーキの調節

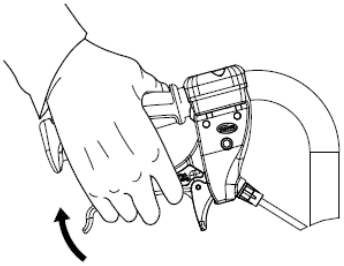


駐車ブレーキをかけるとブレーキピン（B）がタイヤに当たり、タイヤを固定します。
この際にブレーキの効きが十分でない場合には、ボルト（Ａ）を付属の六角レンチで緩め、ブレーキ取り付け部を適切な位置に調節し、ボルト（Ａ）を締め付け固定します。
駐車ブレーキを解除した時のブレーキピン（Ｂ）とタイヤ（Ｃ）の隙間は約６mmにしてください。

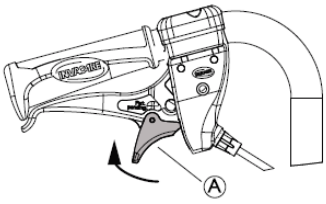
※イラストは実際の商品と仕様が異なります。

注意
ブレーキを適切に調節してください。不適切な場合、十分な制動効果が得られず転倒などの事故につながる恐れがあります。

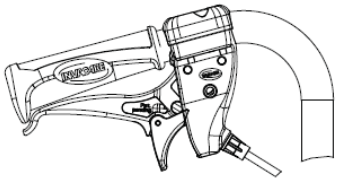
６．４．３　介助用ブレーキ



１．左右の介助ブレーキのレバーを握ると
　　ブレーキがかかります。



２．ブレーキをロックする方法：
　　介助ブレーキを握り、ロックレバー（Ａ）
　　を矢印の方向に上げると介助ブレーキが
　　ロックします。
　　ロックした後ブレーキレバーから手を
　　離してください



３．ブレーキのロックを解除する方法：
　　介助ブレーキのレバーを握ると、ブレー
　　キのロックは自動的に解除されます。

注意
ブレーキを不適切に設定または使用すると、十分な制動効果が得られず、転倒、転落などの事故につながる恐れがあります。

注意
介助ブレーキのロックは一時的に固定することができますが、介助者が離れる場合、移乗、車で移送する場合は、必ず駐車ブレーキを使用してください。

６．５　後方への注意

テーブルなどの物を取る場合には、できる限り対象物に近づいてください。

注意
車いすの後方へ、腕や体を伸ばすと、バランスが崩れ、車いすが後方へ転倒する恐れがあります。

６．６　坂を上る場合

１５°の坂道までご利用いただくことが可能です。安全の為、急な坂での使用は避けてください。坂道は十分に注意して、必ず介助者が押してご使用下さい。

※ご使用前に介助ハンドルがしっかりと固定されている事を確認して下さい。

注意
車いすが後方へ傾いている場合、急に車いすが後方へ倒れる恐れがあります。坂の途中で止まった場合、動き始める際に後方へ転倒する恐れがあるため、注意してください。

６．７　坂を下りる場合

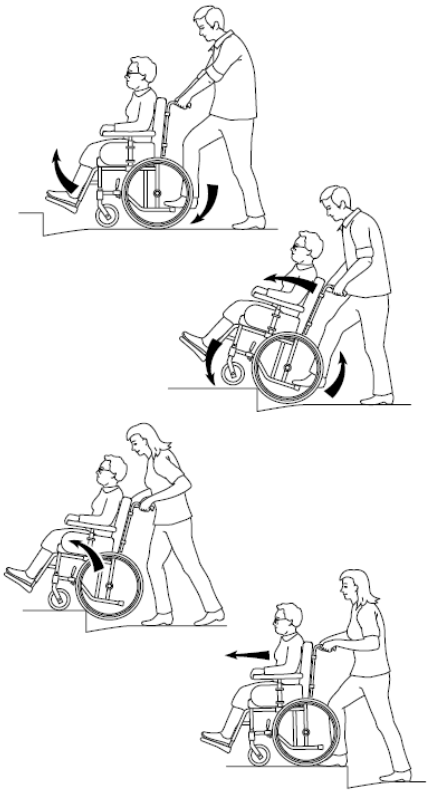
※ご使用前に介助ハンドルがしっかりと固定されている事を確認して下さい。

車いすは１５°の坂道（スロープ）まで使用することができます。

急斜面の移動は避けてください。
急な坂道や濡れた坂道を移動する場合は、複数の介助者が付くことをお勧めします。

注意
- くぼんだ所や、滑り易い場所では十分に注意してください。
- 駐車ブレーキを減速の為に使用しないでください。下り坂で駐車ブレーキを使用すると、車輪がロックされ利用者が車いすから落ちる恐れがあります。
- できるだけ直進しながら減速してください。

６．８　段差の乗り越え



この方法は、介助者が常に車いすの後方にいるため、安全な方法です。
以下の使用方法は、介助者向けです。

１．介助ハンドルが固定されている事を確認し、転倒防止バーを上に向けてください。利用者の足がフットサポートから落ちないよう確認してください。
次に車いすを後方に傾け、フロントキャスタが段差を乗り越えるように車いすを押してください。

２．段差を越えてからフロントキャスタを床に下し、介助者は車いすにできるだけ近づきます。

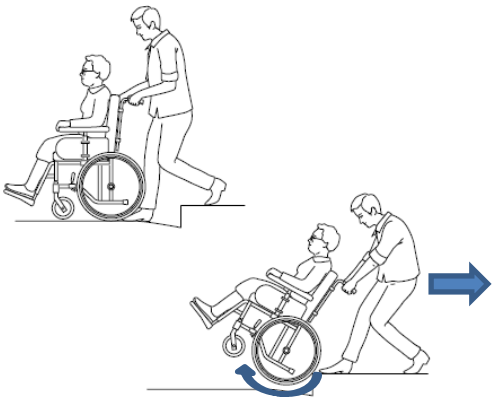
３．車いすを持ち上げ、段差を乗り越えます。

４．段差を越えたら車いすを下ろしてください。車いすが後に進まないよう注意してください。

段差を下りるときは、反対の手順で行ってください。

６．９　段差　-その他の方法-

この方法は、経験があり力の強い介助者である場合で、段差が低い場合や小さい障害物などを越える時に使用する方法です。



１．介助ハンドルの固定を確認し、転倒防止バーを上に向けてください。
利用者の足がフットサポートから落ちないよう確認してください。

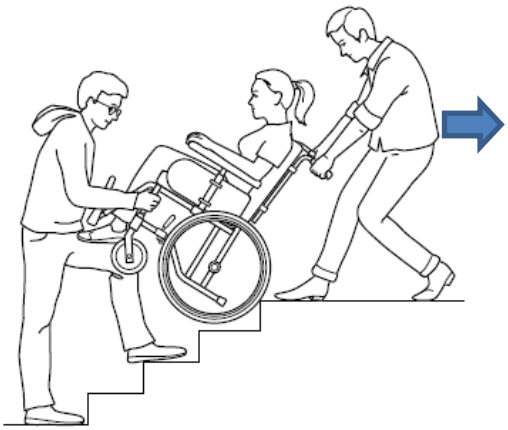
２．介助者が後ろ向きに段差を越えながら車いすを引きます。

３．車いすを後方に傾け、タイヤを回転させながら段差を乗り越えます。

滑り易い場所では十分に注意してください。

６．１０　階段

車いすに乗ったまま、エスカレーターを使用しないでください。
必ずエレベーターを使用してください。



1．介助ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。

2．転倒防止バーを上に上げてください。

3．車いすが安定する角度を確認してください。

4．階段を下りる際は、後輪を段差の角に当て、一段ずつゆっくりと下りてください。

※ フットレッグサポート等、取り外しが出来る箇所は絶対に持たないで下さい。
※ フレーム部の固定された箇所を持って下さい。

注意
車いすを持ち上げる際、取り外しが可能なアームサポート、フットレッグサポート、ヘッドサポートを持たないでください。パーツが外れ、ケガをする恐れがあります。

階段を上り下りする際、二人で介助することをお勧めします。一人が車いすの前方からフレームを持ち、もう一人が車いすの後方で介助ハンドルを持ってください。

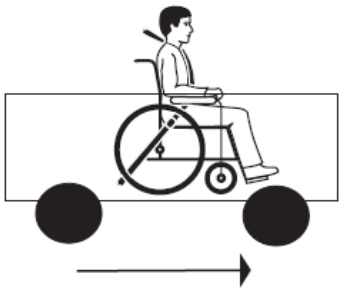
７．車による移動

インバケア社は、製品を日常の様々な状況でお使いいただくため、常に安全性の向上に努めています。手動の車いすについては 1990 年代中頃以降、認証を受けた試験機関に衝突試験を委託しています。
本章では、車いす使用者を車いすに乗せたまま（特に車いす専用車両で）輸送する方法についてお知らせいたします。まず、何よりも申し上げておきたいのは、車両のシートに座り、車両のシートベルトを着用して移動して頂くことが、最も安全で確実な方法であるということです。インバケア社としては、車いす使用者を車いすに乗せたまま輸送することは推奨できませんが、状況によって車いすに乗せたまま輸送しなければならない場合もあることを十分承知しております。こうした場合には、事故によるケガなどの危険性を減らすため、必ず本章で説明する安全性に関する指示に従ってください。

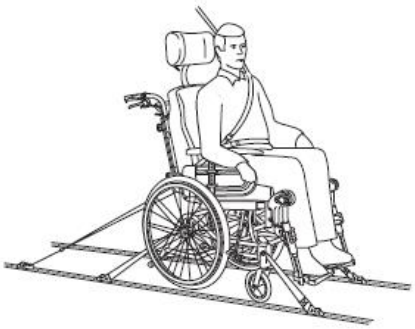
インバケア社の車いすについては、ＩＳＯ７１７６－１９「車両内使用の車輪付き移動機器」の要求事項と試験方法に従い試験を行っています。具体的には、７５ｋｇのダミーを乗せ、重力加速度２０ｇ、時速４８ｋｍで正面衝突させるという衝突試験を行い、要求事項に適合する製品であることが実証されています。ＩＳＯ７１７６－１９は関連機関および専門家が策定した規格であり、車いすを車両に載せて輸送するときに要求される最低限の事項を規定しています。本規格は定期的に更新されています。

インバケア社では頻繁に発生する事故を想定して試験を実施し、標準的な調節を行っていますが、実際の事故状況は、試験環境や条件とは異なりますので（例えば、速度、衝突角度、車いすの設定、使用者の体重、重力加速度などが異なります）インバケア社は、製品に関わる事故が発生した場合の結果に対し一切の責任を負いかねます。以下では、車いす使用者を車いすに乗せたまま輸送するのに適した設定および付属品について説明をします。

７．１　車いすを輸送する方法



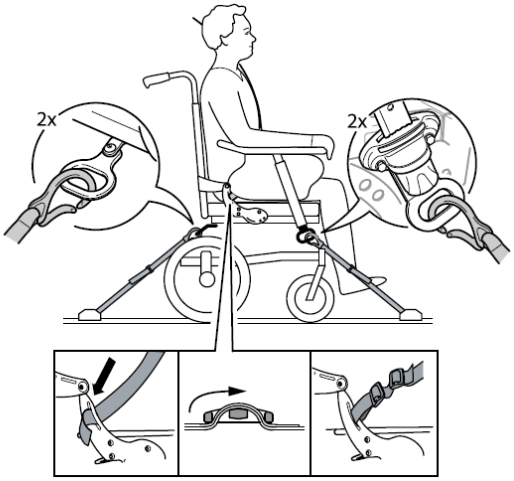
１．
車いす使用者を車いすに乗せたまま輸送する場合には、使用者が進行方向を向くようにしてください。テーブル、体幹サポート、外転防止用クッションなどの付属品は、事故が発生した場合にケガの原因となりますので、すべて取り外し、安全な場所に保管します。



２．
車両内では固定装置を使用し、車いすを 4 か所で固定します。使用者は車両のシートベルトを着用し、身体を 3 か所で固定します。4 か所固定装置と 3 か所固定シートベルトは、ＩＳＯ１０５４２－２に準拠し、認証を受けた製品を使用してください。

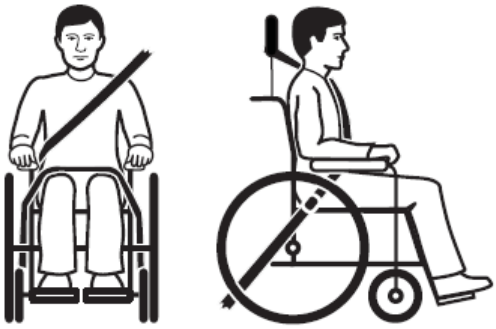
3.
固定装置のベルトで車いすを固定する部分には、必ず左に示すマークを貼付してください。

重要
車いすを固定する装置がない車両については、既存の方法で試験を行うことが出来ません（対象外）。車両に載せた車いすに貼付するマークがある場合は、これを貼付し、車いすの設置・固定に関するガイドラインがある場合も、これに準拠することを推奨します。

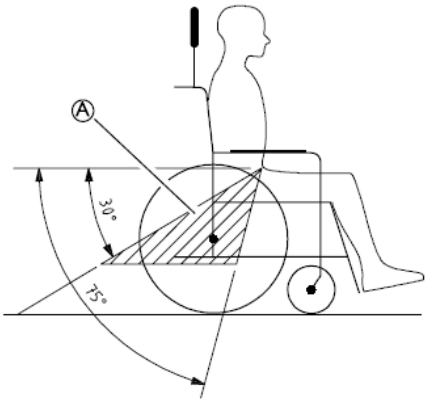


4.
車いすを車両に載せる場合（車両の座席を使用しない場合）は、必ず車いすの骨盤ベルトを着用してください。

重要
必ずインバケア社製の骨盤ベルトを車両のシートベルトの補助として使用してください。

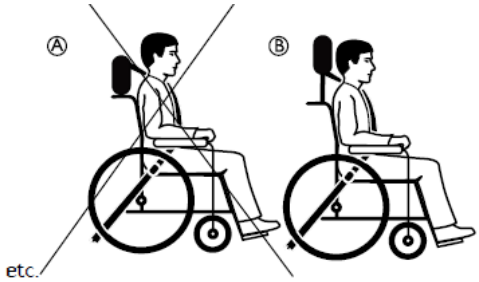


5.
車両のシートベルトはできるだけきつく、ただし圧迫感を与えない程度に締めます。図に示すように、シートベルトの上部が使用者の方を固定するようにします。シートベルトはねじれがないように着用してください。



6.
３か所固定の車両のシートベルトは、骨盤にかかるように着用し骨盤ベルトが水平方向となる角度 30°～75°の範囲（A）にくるようにします。範囲内の角度はできるだけ大きくしますが、決して 75°以上にはならないよう気をつけてください。

7.
３か所固定シートベルトがアームサポート、後輪などの車いすの部品に引っかかり、身体との間に隙間ができないように注意してください。



8.
移動中は必ずヘッドサポートを使用し、図（B）に示すように調節します。

警告
車いすに骨盤ベルトが装着されていない場合は、必ず車両のシートに移乗してください。

警告
車いすの骨盤ベルトをシートベルトの代わりに使用することはできません。必ず、車両に備え付けのシートベルトを使用してください。

注意
シートベルトが車いすの部品に引っかかり、身体との間に隙間ができないように十分に注意してください。

８．点検整備

８．１　毎日の点検

車いすをご利用になる前に、各パーツに緩みや破損など無いか点検してください。

・メインホイール　　・フロントキャスタ
・バックサポート　　・アームサポート
・転倒防止バー　　・ヘッドサポート
・介助ハンドル　　・リクライニングシリンダー
・フットレッグサポート　　・ティルトシリンダー
・駐車ブレーキ　　・介助用ブレーキ

８．２　安全にお使いいただくために

車いすを安全にご利用いただき、また長くご利用いただくためにも、定期的な点検整備が必要です。

８．３　清掃方法

・金属部分やカバー類は湿らせた布で拭いてください。
・中性洗剤をご使用ください。
・カバーは６０℃以下のお湯で洗濯することができます。
・一般的な粉末/液体洗剤を使用できます。
・希釈したアルコールによる清拭が可能です。

８．４　車いすの洗浄

１．取り外し可能なカバーは、すべて洗濯機で洗う事が可能です。

２．パッド類、シートクッション、アームサポート、ヘッドサポート、カフサポートなどは、取り外して個別に清掃してください。

> **！　重要**
> 高圧洗浄機などで、パーツやパッド類を洗浄しないでください。

３．車いすのフレームは車用洗剤を使用して洗浄することができます。

４．車いすのフレームについた洗剤を洗い流す際は、汚れの程度により高圧洗浄機や散水ホース等を使用することができます。ただし、留め具、固定具、シリンダーには直接散水しないでください。
車いす用の洗浄機を使用する場合には、必ず６０℃以下のお湯を使用してください。

５．車いすのフレームは、希釈したアルコールによる清拭が可能です。

６．車いすを乾燥室に入れる際は、フレーム、パイプの端部、接続部などに、水が溜まっている場合には水分を拭き取ってください。車いす用の洗浄機を使用する場合は、高圧の空気を吹き付けて乾燥してください。

８．５　定期点検について

点検項目	毎週	毎月	半年ごと
留め具/固定具（ボルト等）		○	
メインホイール		○	
フロントキャスタ		○	
転倒防止バー			○
本体フレーム			○
クッション			○
ブレーキ		○	

留め具/固定具（ボルト等）
日常的な使用により、ボルト及びナットが緩んでいないか確認します。
メインホイール、フロントキャスタ、フットサポート、シート、スカートガード、バックサポート、介助ハンドルなどを固定するボルト、ナット及びつまみネジ等がきちんと締まっていることを確認してください。ボルト等が緩んでいる場合には締め直します。

メインホイール・フロントキャスタ
タイヤ（メインホイール）とフロントキャスタがスムーズに動くことを確認してください。
ゴミや髪の毛が絡まっている場合は取り除いてください。
接地面にひび割れ等がないか、確認して下さい。

転倒防止バー
転倒防止バーの動作（効き具合）を確認してください。

本体フレーム
フレームに緩んだ部分、ひび割れ等の破損、傷がないかを確認します。
破損が見つかった場合には使用を中止し、販売店にご連絡ください。

クッション
クッションに緩んだ部分、ほころび等の破損、摩耗がないかを確認してください。

ブレーキ
介助用ブレーキ及び駐車ブレーキが正しく作動することを確認してください。
ブレーキを固定しているボルト及びナットに緩みがないか確認してください。

９．車いすの処分/回収

再利用

当社の車いすの構成部品は以下のように大別されます。

・フレーム
・プラスチック部品
・クッション
・梱包材

フレーム

鋼製のフレームは１００％再利用できます。
当社製品にはシリンダーが 2 本ありオイルが含まれますので、各国の廃棄処分に関する規制に従ってください。尚、シリンダーには高圧ガスも封入されていますので、処分する時には十分に注意してください。

プラスチック部品

車いすのプラスチック部品には「熱可塑性」プラスチックが使用されており、再利用マークが部品のサイズにより可能な場合、貼付されています。主なプラスチック素材はポリアミドです。ポリアミドは再利用、または許可を受けた業者による焼却処分が可能です。

クッション

クッションにはポリウレタン（ＰＵＲ）を使用しています。クッションの回収方法としては、許可を受けた業者へ処分の依頼をしてください。

梱包材

インバケア社製品の梱包材には製品に最適な素材を使用し、無駄な梱包材は使用していません。梱包用の箱はすべて再利用できます。
上記の材料の処分については、お近くの回収業者にお問い合わせの上、ご確認下さい。

品質保証書

この度は、『ダリア』をお買い上げいただき誠にありがとうございました。
本製品の保証は、下記記載の「保証規定」により、正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、お買い上げ日より１年間無償にて修理するものです。

製品名	『　ダリア　』
製造番号	
お客様お名前	
お客様ご住所	
お客様お電話番号	
お買い上げ日	平成　　年　　月　　日
保証有効年月日	お買い上げ日より１年間
取　　扱　　店	
保証責任者連絡先	シーホネンス株式会社 【大阪本社】 〒537-0001 大阪府大阪市東成区深江北３―１０－１７ TEL：０６－６９７３－３４７１ FAX：０６－６９７３－３４４０

保証規定

Ⅰ．保証の範囲

１．保証の範囲は本体のみの保証となります。
２．保証期間はお買い上げ後１年間です。
３．下記の場合は保証期間中であっても有料になります。
＊お取り扱い上の過誤並びに不注意による故障
＊製品に改造を加えた場合での故障
＊天災等の不可抗力によって生じる損害や故障
＊タイヤ等の消耗品
＊保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合
＊保証書の提示がない場合

Ⅱ．サービスのご用命

保証期間中に、万一故障が生じた場合はお買い上げ店、もしくは保証責任者へ保証書を添えてお申し出下さい。

MEMO

製造元

Invacare Rea AB
Box 200
SE-343 75
Diö SWEDEN

発売元

シーホネンス株式会社

本社：〒537-0001
大阪府大阪市東成区深江北 3-10-17
TEL：06-6973-3471
FAX：06-6973-3440

札幌：〒002-8052
北海道札幌市北区篠路町上篠路 6-136
TEL：011-374-6404
FAX：011-374-6414

仙台：〒983-0043
宮城県仙台市宮城野区萩野町 3-2-10
TEL：022-762-5046
FAX：022-762-5047

東京：〒272-0001
千葉県市川市二俣 717-63
TEL：047-329-7055
FAX：047-328-5605

名古屋：〒468-0049
愛知県名古屋市天白区福池 1-247
TEL：052-893-9501
FAX：052-893-9500

九州：〒838-1506
福岡県朝倉市杷木林田 1256-3
TEL：0946-62-1000
FAX：0946-62-1002